

2018年12月期 第2四半期 決算補足説明資料

株式会社 ミズホメディー(証券コード4595)

2018年8月10日

- I 会社概要**
- II 事業概要**
- III 2018年12月期 第2四半期決算実績と
2018年12月期 通期業績予想**
- IV 今後の成長戦略**

I 会社概要

会社概要



商号	株式会社 ミズホメディー（証券コード4595）
設立	1977年11月2日
本社所在地	佐賀県鳥栖市藤木町5番地の4
代表者	代表取締役会長兼社長 唐川文成
従業員数	163名（2018年6月30日現在）
事業内容	診断薬事業…病院・開業医向け体外診断用医薬品の開発・製造・販売 OTC事業…OTC（薬局・薬店）向け検査薬の開発・製造・販売
主要取引先	株式会社メディセオ、東邦薬品株式会社、アルフレッサ株式会社 株式会社スズケン、株式会社バイタルネット、富士フィルム株式会社 他
営業拠点	本社、東京営業所、大阪営業所、名古屋営業所、その他各地駐在
開発拠点	佐賀県鳥栖市 本社工場

※OTC（Over The Counter）： 医師の処方箋がなくても購入できる医薬品
薬局、薬店、ドラッグストアなどでカウンター越しに販売することに由来した名称

Ⅱ 事業概要



※POCT (Point of Care Testing) : 診察室、病棟及び外来患者向け診療所など、患者に近い医療現場での検査



① POCT製品（迅速診断キット）

クイック チェイサー シリーズ

大病院からクリニックまで、どのような医療現場でも使うことができる、POCT製品(迅速診断キット)シリーズ

呼吸器感染症検査薬

インフルエンザウイルス



アデノウイルス



RSウイルス



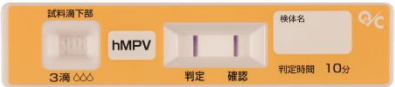
StrepA(A群β溶連菌)



RSV/hMPV



hMPV



マイコプラズマ



肺炎球菌/レジオネラ



消化器感染症検査薬

ノロウイルス



ロタ/アデノ



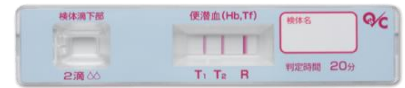
血中ウイルス検査薬

HBV (B型肝炎)



尿糞便検査薬

便潜血



② POCT機器試薬システム



➤ 高感度感染症迅速診断システム

- ◎ 当社メンブレン技術と富士フイルム株式会社の機器製造ノウハウを融合して実現
- ◎ インフルエンザウイルス、マイコプラズマ、RSV/Adeno の高感度製品3項目、アデノウイルス、Strep A(A群β溶連菌)の計5項目をラインナップ
- ◎ 2018年2月、さらに実用性を向上させた後継機『Immuno Reader II』を発売

デンストメトリー分析装置

クイックチェイサー Immuno Reader



デンストメトリー分析装置

クイックチェイサー Immuno Reader II



【専用試薬】

クイックチェイサー® Autoシリーズ

Flu A,B



Myco



RSV/Adeno



Adeno



Strep A



<製品の特長>

【I・II共通】

- ◆ 早期診断が可能
(発症初期の診断精度向上)
- ◆ 装置による結果判定
(判定結果はモニター表示
とプリントアウト)

【IIの実用性向上ポイント】

- ◆ コンパクト化(省スペース)
- ◆ タッチパネルの採用
(操作性・視認性向上)
- ◆ バーコードリーダー搭載
(検体ID情報等読取可)



➤ 妊娠検査薬・排卵日検査薬

◎ 自社ブランド「P-チェック」での販売や大手チェーン店とのPB提携も実施

【妊娠検査薬】



【排卵日検査薬】



※妊娠検査薬は早期に展開しシェアトップ

◎ 武田コンシューマーヘルスケア(株)販売のハイテスターシリーズ

【妊娠検査薬】



【排卵日検査薬】



**Ⅲ 2018年12月期 第2四半期決算実績と
2018年12月期 通期業績予想**



➤ 業績ハイライト(第2四半期累計)

✓売上高	3,093百万円	(前年同期比 22.3%増、予想比 0.7%増)
✓営業利益	578百万円	(前年同期比 93.0%増、予想比 4.1%増)
✓経常利益	580百万円	(前年同期比 93.0%増、予想比 3.8%増)
✓四半期純利益	437百万円	(前年同期比 97.2%増、予想比 7.3%増)

※予想比は、2018年5月11日2Q修正予想

➤ ポイント

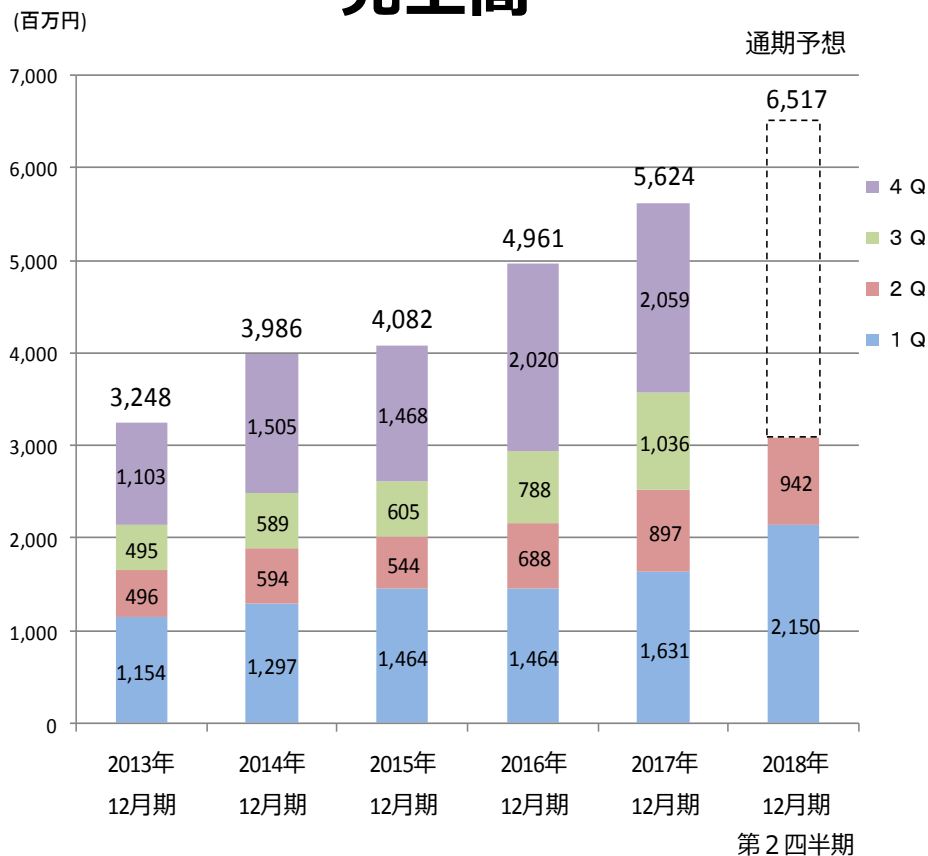
- ✓インフルエンザの大流行により、前年同期比では、大幅な増収増益
- ✓1Q決算発表時に2Q累計予想を修正、ほぼ予想どおりに着地
- ✓2Q累計実績を反映し、通期業績予想を上方修正
 - ・売上高 6,517百万円(前期比 15.9%増)見込
 - ・経常利益 1,116百万円(前期比 31.2%増)見込

2018年第2四半期決算実績 業績の推移（売上高、経常利益）

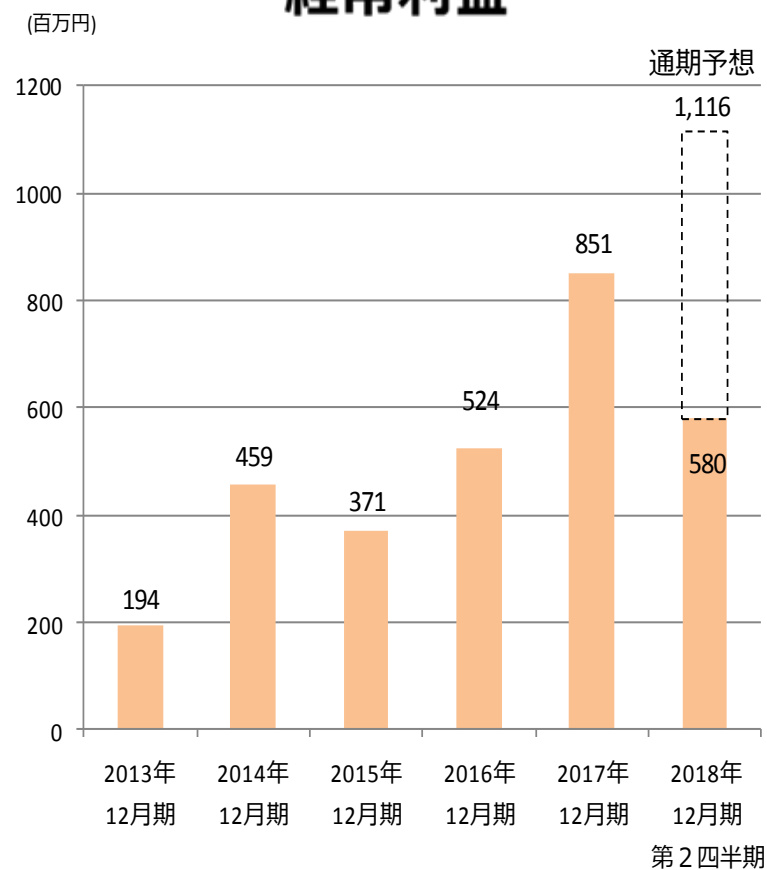


- 増収・増益基調 継続（2011年より8期連続見込）
- 売上高・経常利益は、第1・第4四半期（インフルエンザ流行期）に集中

売上高



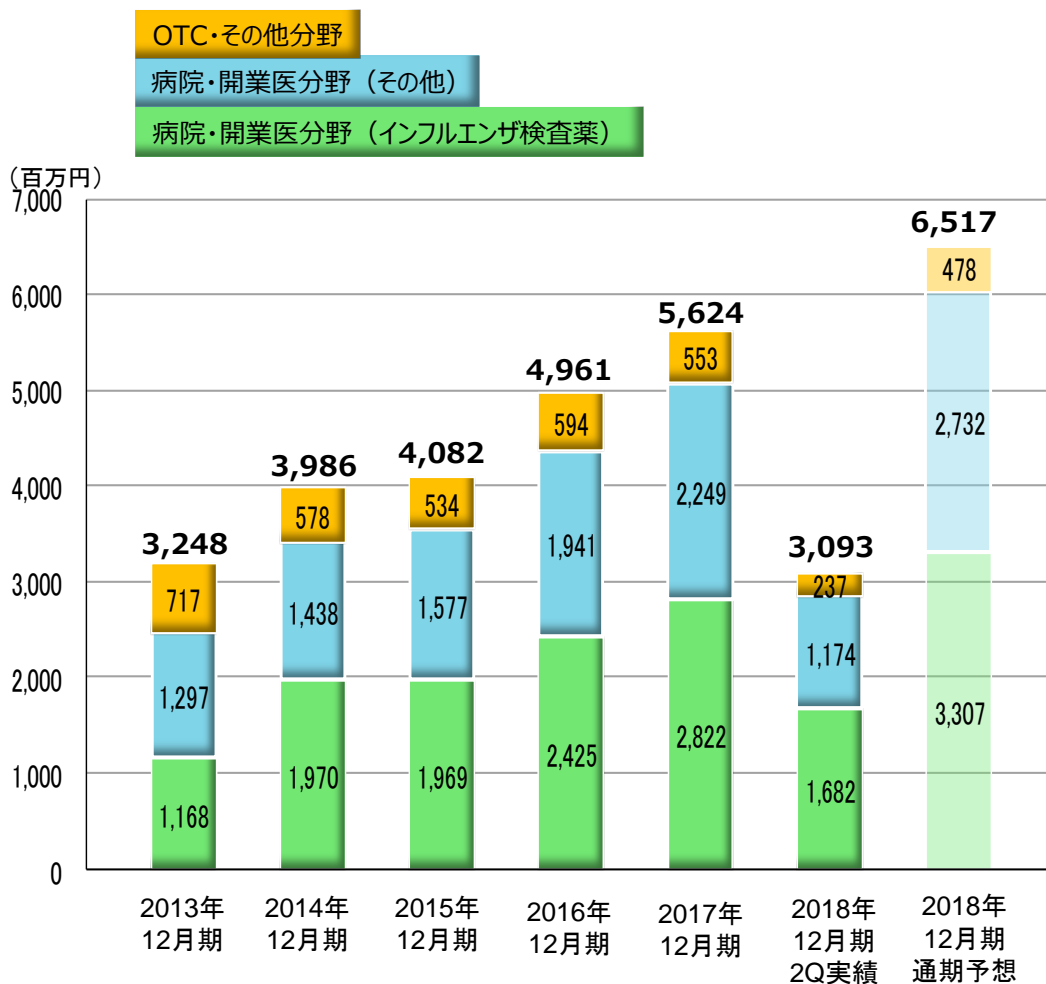
経常利益



2018年第2四半期決算実績 市場分野別の売上高推移



市場分野別の売上高



2018年第2四半期累計実績

■ 病院・開業医分野 (2,856百万円 26.2%増)

- ◇ **インフルエンザ検査薬 (1,682百万円 28.7%増)**
 - ・2017/2018シーズンのインフルエンザは、早く始まり3月には終息したため、検査薬の需要は、1Q会計期間(1~3月)に偏ったものの、大きな流行により、2Q累計期間(1~6月)の売上高は、大幅に増加

◇ その他 (1,174百万円 22.8%増)

- ・その他感染症項目の検査薬は、製品ラインナップ数の充実という強みにより、各項目が増加基調を継続中
 ストレプトA、RSV/ヒトメタニューモ、ノロウイルス、アデノ検査薬など
- ・前事業年度の新製品も売上高増加に貢献
 眼科用アデノ、肺炎球菌/レジオネラ検査薬など

■ OTC・その他分野 (237百万円 10.8%減)

- ・妊娠検査薬： 価格競争や他社新規参入のなか売上高は伸び悩む
- ・排卵日検査薬： 一般用検査薬への転用の影響により、薬局向け自社ブランド製品の売上高は減少傾向

2018年第2四半期決算実績 損益計算書 P/L (前年同期比、予想比)



- 売上高 3,093百万円 (前年同期比 22.3%増、予想比 0.7%増)
- 経常利益 580百万円 (前年同期比 93.0%増、予想比 3.8%増)

✓前年同期比では、2017/2018インフルエンザ大流行の影響により、大幅な増収増益

✓予想比(2018年5月11日)では、ほぼ予想どおりに着地

(百万円)

	2017年12月期		2018年12月期							
	2Q累計実績		2Q累計予想 (5月11日修正)		2Q累計実績		前年同期比		予想比 (5月11日修正)	
	金額	構成比 %	金額	構成比 %	金額	構成比 %	増減額	増減率 %	増減額	増減率 %
売上高	2,529	100.0	3,073	100.0	3,093	100.0	564	+22.3	20	+0.7
差引売上 総利益	1,665	65.9	2,149	69.9	2,130	68.9	464	+27.9	△19	△0.9
販売費及び 一般管理費	1,365	54.0	1,593	51.8	1,551	50.1	185	+13.6	△42	△2.6
営業利益	299	11.9	556	18.1	578	18.7	278	+93.0	22	+4.1
経常利益	300	11.9	558	18.2	580	18.7	279	+93.0	21	+3.8
四半期 純利益	221	8.8	408	13.3	437	14.2	215	+97.2	29	+7.3

2018年第2四半期決算実績 貸借対照表 B/S (資産)



□ 当社第2四半期末 B/Sの特徴 「インフルエンザの季節変動の影響」

- インフルエンザ検査薬に係る売上債権の回収が、第2四半期会計期間に集中するため、売上債権は減少し、現預金は増加する傾向あり

(百万円)

	2017年 12月末	2018年 2Q末	増減額	主な増減内容
流動資産	3,226	2,982	△244	
現金及び預金	265	891	625	・売上債権の回収に伴う増加
売上債権	2,104	1,039	△1,064	・主にインフルエンザ検査薬の 売上債権の回収に伴い減少
たな卸資産	785	976	190	
その他流動資産	71	75	3	
固定資産	1,151	1,456	305	
有形固定資産	939	1,238	298	・土地取得 282
無形固定資産	8	9	1	
投資その他の資産	203	208	5	
資産合計	4,377	4,439	61	

2018年第2四半期決算実績 貸借対照表 B/S (負債・純資産)



(百万円)

	2017年 12月末	2018年 2Q末	増減額	主な増減内容
流動負債	1,162	1,001	△161	
仕入債務	458	439	△19	
短期借入金	81	81	—	・1年内返済予定長期借入金
その他流動負債	622	480	△142	・未払費用の減少△83 ・未払法人税等の減少△37
固定負債	777	763	△14	
長期借入金	102	62	△40	
その他固定負債	674	701	26	
負債合計	1,940	1,765	△175	
株主資本	2,436	2,673	237	
資本金	464	464	—	
資本剰余金	274	274	—	
利益剰余金	1,698	1,936	237	・2017年12月期配当金△200 ・四半期純利益437
純資産合計	2,437	2,674	237	
負債純資産合計	4,377	4,439	61	

2018年第2四半期決算実績 キャッシュ・フロー計算書 C/F



□ 当社第2四半期 C/F の特徴 「インフルエンザの季節変動の影響」

- インフルエンザ検査薬に係る売上債権の回収が第2四半期会計期間に集中するため、通期に比べ、売上債権の減少により、「営業活動によるキャッシュ・フロー」が増加する

(百万円)

	2017年2Q (1月～6月)	2017年通期 (1月～12月)	2018年2Q (1月～6月)	コメント
営業活動による キャッシュ・フロー	1,210	877	1,211	<ul style="list-style-type: none"> ・売上債権の減少 (+1,064) ・税引前四半期純利益 (+580) ・たな卸資産の増加 (△190) ・法人税等支払 (△154) ・未払費用の減少 (△83)
投資活動による キャッシュ・フロー	△42	△107	△343	<ul style="list-style-type: none"> ・有形固定資産の取得 (△342)
財務活動による キャッシュ・フロー	△538	△580	△242	<ul style="list-style-type: none"> ・配当金の支払 (△199) ・長期借入金の返済 (△40)
現金及び現金同等物 の増減額	629	190	625	
現金及び現金同等物 の期首残高	75	75	265	
現金及び現金同等物 の四半期末残高	704	265	891	

2018年12月期 通期業績予想



- **2Q累計実績 ⇒ 2017/2018インフルエンザの大流行により、大幅な増収増益**
- **通期業績予想 ⇒ 2Q累計実績を反映し、通期予想を上方修正(2018年8月10日)**
前期比 売上高 15.9%増、経常利益 31.2%増
 - ✓ **病院・開業医分野** – インフルエンザ検査薬やその他感染症項目の検査薬は、増収基調の継続を予想
 - ✓ **OTC・その他分野** – ハイテスター（武田CH向け）と当社製品で売上高を維持拡大

(百万円)

	2017年12月期		2018年12月期				
	前期実績		2Q累計実績		通期予想 (8月10日修正)		前期比
	金額	構成比 (%)	金額	構成比 (%)	金額	構成比 (%)	増減率 (%)
売上高	5,624	100.0	3,093	100.0	6,517	100.0	+15.9
売上総利益	3,659	65.1	2,130	68.9	4,267	65.5	+16.6
販売費及び 一般管理費	2,808	49.9	1,551	50.1	3,153	48.4	+12.3
営業利益	850	15.1	578	18.7	1,113	17.1	+30.9
経常利益	851	15.1	580	18.7	1,116	17.1	+31.2
当期純利益	660	11.7	437	14.2	853	13.1	+29.3

IV 今後の成長戦略

▶ 遺伝子POCT検査機器・試薬システムの製品化

オールインワン（遺伝子抽出・増幅・検出）試薬による
遺伝子POCT検査を実現

遺伝子検査の全てを
1つの試薬と1台の小型装置に集約

- ・1ステップ
- ・短時間
- ・安価

遺伝子POCT検査キット
『スマートジーン[®] Myco』 許認可取得
※現在、発売準備中



▶ 遺伝子検査のPOCT化による遺伝子検査マーケットの拡大

● 感染症診断分野における遺伝子POCT検査の実用化

- ・ 感染症の原因菌やウイルスを早期に検出 ⇒ 初期感染の見逃し防止, 早期治療
- ・ 各種抗菌剤に対し耐性化した遺伝子変異部を増幅して特異的に検出 ⇒ 適確な投薬の選択

● 診断・治療現場への遺伝子POCT検査の普及

- ・ 装置価格の低減, 簡易な測定操作, 結果判定の迅速化 ⇒ 一般病院検査室, 開業医での検査実施
- ・ 小児, 老人, 免疫不全患者における診断の迅速化 ⇒ 重篤化の低減と死亡率の低下, 院内・家族内感染など水平感染の防止

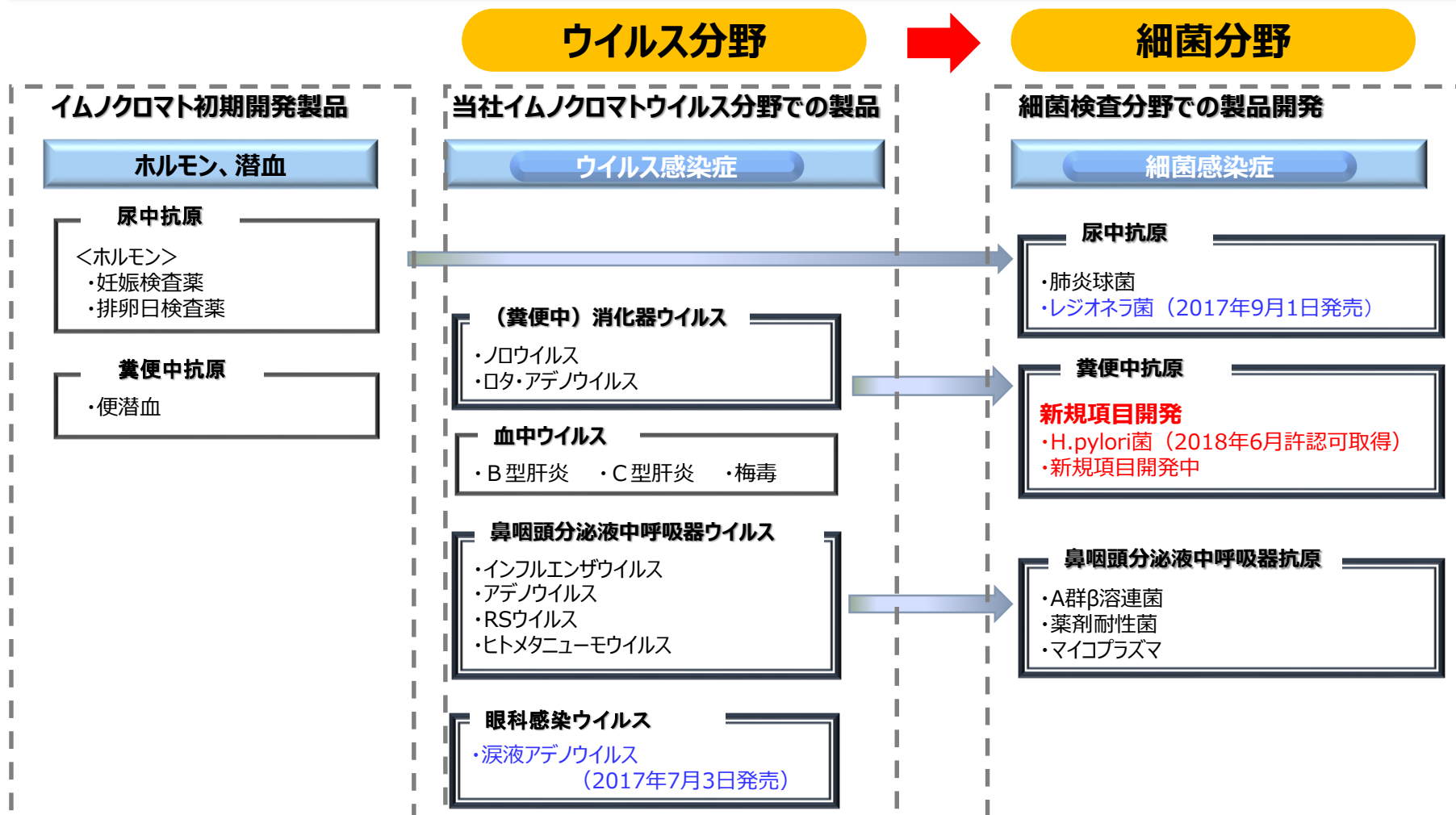
● 遺伝子POCT検査市場の創出

- ・ 新たな遺伝子POCT検査項目の開発と製品化 (夏場および通年流行の感染症)

<開発項目分野>

- ・ 呼吸器感染症項目 (ウイルス, 細菌)
- ・ 消化器感染症項目 (ウイルス, 食中毒菌)
- ・ 薬剤耐性菌項目

クイックチェイサーシリーズの拡大



技術をベースにしたハイブリッドな成長戦略

新規診断技術の創出

マーケット展開

技術革新 [ウイルス・細菌に特化]

病院・開業医分野

OTC・その他分野

確定診断技術

遺伝子POCT検査による
確定診断機器・試薬システムの市場展開

- ・呼吸器感染症項目
- ・消化器感染症項目
- ・薬剤耐性菌項目



- ・感染初期の確定診断需要を拡大

◎環境・食品検査分野
への応用開発

- ・遺伝子POCT技術を応用した環境・食品微生物検査への展開

スクリーニング検査技術

クイックチェイサーシリーズのシェア拡大

- ・対象疾患の拡大
- ・既存製品の改善・改良

◎次世代多項目マルチ検査システムの開発

- ・正確性・迅速性への更なるシーズ開発



- ・ウイルス分野から細菌分野への市場創出

スイッチOTCマーケット
での業績拡大

- ・スイッチOTC製品の先発販売
- ・武田コンシューマーヘルスケアとの販売提携

安定的収益と企業成長

自社開発・製造販売一貫体制の強みを活かした両分野での成長戦略

IRに関するお問い合わせ先

株式会社ミズホメディー 総務部

電話：0942-85-0303

メール：当社ウェブサイト IRに関するお問い合わせフォームより

将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。